

平成26年度「学校評価」総括表

徳島県立海部高等学校

○学校経営基本方針

徳島県教育基本目標に従い、一人一人の人権を尊重し、豊かな心と確かな学力を持ち、社会の変化に主体的に対応できる実践力のある調和のとれた人間を育成する。

○本年度重点課題

1. 学力向上の推進及び進路指導の充実
2. 生徒指導の徹底 及び 保健安全・環境教育の充実
3. 特別活動及び海部寮の充実
4. 人権教育の充実
5. 特別支援教育・教育相談の充実
6. 開かれた学校づくり
7. 危機管理体制の充実

基本的なコンセプト

校訓「絆」「学」「夢」を大切にしたい人づくり

- 「絆」→心のふれあいを大切にして、豊かな人間性を育てる。
 「学」→多様な個性と能力を伸ばし、生きる力を育む。
 「夢」→夢を持ち、自己実現に向けて努力する人間を育てる。

○総括評価表

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方針	
1 学力向上の推進及び進路指導の充実 (1)	①分かる授業、興味を持ち学ぶことが楽しい授業の実施	評価指標 ①生徒による授業評価アンケート→年1回 授業に対する生徒の満足度 (生徒による授業評価アンケート)→75%以上 教員による公開授業週間→年2回 学力向上委員会→年5回	評価指標の達成度 ①生徒による授業評価アンケート→1回(11月) 授業に対する生徒の満足度 (生徒による授業評価アンケート)→88%【平成25年度86%】 教員による公開授業週間→1回(1月) 学力向上委員会→7回	総合評価 (評定) B (所見) ①～⑥家庭学習の習慣化が本校生徒の大きな課題である。進路実現に必要な学力を身に付けるために家庭学習の必要性を強く意識させていきたい。また、保護者の進路意識の高揚を図るのがもうひとつの課題である。	①全教職員による学校評価についての共通理解を進める必要がある。 ①指導と評価の一体化を意識した授業実践を行うために、各課・各教科会の充実が望まれる。 ③授業の実施率については、現在の評価制度で問題はない。 ④家庭学習時間の数値目標については、再考する必要がある。 ⑤校内テストについては、早い時期からの学習を徹底させ、得点率の向上を図る。	
	②図書活動の推進	②図書室の年間貸し出し冊数→3,500冊以上 図書館だより→年3回, 全校一斉読書会→年1回	②図書室の年間貸し出し冊数→3,713冊(学級文庫を含む。2月末現在) 図書館だより→3回, 全校一斉読書会→1回			①全ての教職員に「海部高校:『学力・学習状況』改善プラン」を周知徹底する。 ①各教科会を定期的に行き、PDCAサイクルに基づいた見直し・改善に努める。 ③さらなる、行事の精選や学期末の日程の工夫をととして、授業時数の確保に努める。 ④学年団との連絡を密にし、平日頃から根気強く、習慣化を働きかける。プリント学習の徹底を図る。 ⑤教科会・学年団との連携を図る。
	③授業時数の確保	③授業の実施率→法定授業時数の80%以上	③行事を精選し、授業の確保に努めた。 授業の実施率82.6%(1・2学期間)【平成25年度82.7%】			
	④学習習慣の定着	④平均家庭学習時間2時間以上の者の割合→40%以上 生活実態調査実施→年5回, 週末課題→年20回以上	④平均家庭学習時間→1.5時間 2時間以上学習者→30% 生活実態調査→5回, 週末課題→年間20回以上実施できた。			
	⑤自ら学習する態度の育成	⑤補習出席率→90%以上 校内テスト各教科の平均得点率→50%以上 自主的なプリント学習(国・数・英)提出者→毎日90%以上	⑤補習出席率→90%以上達成できた。 校内テスト各教科の平均得点率→47%でほぼ達成できた。 自主的なプリント学習(国・数・英)参加者→毎日80%			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
1 学 力 向 上 の 推 進 及 び 進 路 指 導 の 充 実 (2)	⑥望ましい職業観や進路意識の育成	⑥進路講演会→年2回以上 企業・大学・短大・専門学校等への視察研修→年1回以上 生徒・保護者への進路ガイダンス実施→年2回以上 保護者対象進路説明会→年2回以上・出席率50%以上	⑥進路講演会→4回 大学等への視察→1回 生徒・保護者への進路ガイダンス→1回 保護者対象進路説明会→2回 保護者対象進路説明会出席率→20%にとどまり、目標数値を達成できなかった。	⑥保護者対象の進路説明会の出席率については、数値目標の再考が必要である。	⑥進路への意識を高揚させるため、保護者対象の講演会を開催する。また、定期的に進路情報を発信する。
	⑦個人の能力や適性の伸長	⑦進学希望者校外模試全員受験→90%以上	⑦進学希望者校外模試全員受験→80%	(所見) ⑦ほぼ達成できた。	⑦全員受験の徹底化と受験後の見直しを徹底させる。
	⑧きめ細かな進路指導	⑧家庭との協力体制を図る。三者面談→年1回以上 進路希望調査→年5回実施、進路検討会→年3回以上	⑧三者面談→多い生徒で5回、少ない生徒で2回 進路希望調査→5回、進路検討会→3回	⑧達成できた。	⑧進路検討会については、会議の効果的な在り方を検討したい。
	⑨キャリア教育の充実	⑨生徒・保護者対象の説明会・講演会→年間2回以上 三者面談・個人面談の実施→年3回以上 模擬面接練習→年5回以上	⑨生徒・保護者対象の説明会・講演会→2回 三者面談・個別面談の実施→3回以上 模擬面接練習→5回以上	⑨達成することができた。模擬面接では多くの先生方に協力いただき、充実した面接練習ができた。	⑨求人数は増加傾向であるが、各企業の採用基準は厳しくなっている。適性等を十分考慮し、慎重な進路決定をさせていくべきである。
	⑩進路指導体制の充実	⑩就職指導研修会実施→年6回 就職補習の出席率→90%以上	⑩就職指導研修会実施→7回 就職補習の出席率→97.3%	⑩達成できた。補習においては、基礎学力以外にもグループディスカッションを取り入れて試験対策を行うことができた。	⑩3年次では意識ある行動ができているが、もう少し早い段階から、意識させるべきである。職業に対する興味を持たせる工夫も必要である。
⑪各種検定の受検者数増・合格率の引き上げ	⑪情報ビジネス科検定(簿記、情報処理、ワープロ、商業経済、珠算・電卓、商業英検) →2級合格率50%以上、1級合格率25%以上	⑪情報ビジネス科検定合格率 簿記 2級→55.6%・1級→25.0% 情報処理 2級→56.1%・1級→14.3% ビジネス情報 2級→62.2%・1級→8.0% 商業経済 2級→46.4%・1級→27.8% 珠算・電卓 2級→45.5%・1級→58.7%	⑪ほぼ達成できた。検定内容や受験方法が改訂された。これにより、目標設定の指標を変更すべきである。	⑪各検定の1級の難易度が高くなってきている。また、来年度より、各検定の大幅な値上げがあり、受験させる検定の見直しをしていこうと考えている。	

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策	
1 学力向上の推進及び進路指導の充実（3）	①分かる授業、興味を持ち学ぶことが楽しい授業の実施	<p>活動計画</p> <p>①-1教科・科目において、生徒の理解度や授業への興味・関心等について意識の変化を把握し、生徒が主体的かつ積極的に授業に取り組むよう創意工夫する。 ①-2授業での小テスト・定期テスト・校内テスト・模試など、テストを生かした指導方法の改善を図る。 ①-3公開授業週間を充実し、授業力向上を目指す。</p>	<p>評価指標の実施状況</p> <p>①教科・科目において、授業評価アンケートを実施し、生徒の理解度や授業への興味・関心等について把握し、生徒が主体的かつ積極的に授業に取り組むよう工夫した。公開授業週間を1月に設定し、授業力向上を目指した。</p>	(所見) ①授業アンケートを実施することにより、生徒の授業の取り組み状況や家庭学習状況についても把握することができた。	①授業アンケートの結果やデータの生かし方についてはさらに工夫が必要である。	①授業評価アンケート・公開授業週間の充実を図る。
	②読書活動の推進	②「みんなでやる。毎日やる。好きな本でいい。ただ読むだけ。」をモットーに朝の読書の充実を図る。	②学級文庫を設置するなどして、朝の読書の充実を図った。			②朝読の時間を継続する。
	③授業時数の確保	③行事の精選や学期末の日程の工夫をととして、授業時数の確保に努める。	③行事の精選や学期末の日程の工夫をととして、授業時数の確保に努めた。			
	④学習習慣の定着	④全ての生徒の学習習慣の定着を図るために、きめ細かな目標や課題の設定などの指導助言を行う。5教科で週末課題を実施し、課題の工夫と実施の徹底を図る。	④英・数・国を中心に週末課題を実施し、課題提出の徹底を図った。	④⑤週末課題やプリント学習の中身を授業態度や生徒のニーズを踏まえて検討したい。		④～⑩保護者生徒双方の職業意識・進路意識の高揚に向けて、効果的な方策を追求していく。
	⑤自ら学習する態度の育成	⑤-1普通科・情報ビジネス科の生徒に補習の積極的・継続的な参加を、根気強く呼びかける。個人面談で学習の必要性を説得していく。 ⑤-2校内テストの難易度を考慮し、多様な生徒に対応した作問について各教科で検討し実施する。また、校内テストの出題範囲を明示して、計画的な学習に取り組ませる。 ⑤-3プリントの中身について、難易度に考慮し、モチベーションを高め継続する内容となるよう工夫する。	⑤定期考査や校内テストに向けての学習を促すために、生徒昇降口に看板を設置し、意識の高揚を図った。自分の分からない部分をなくそうとして積極的に質問に来る者もいるが、質問に来る者は限られている。質問に来る人数を増やす工夫をしたい。		⑤継続できなかった生徒への呼びかけを粘り強く行う。	
	⑥望ましい職業観や進路意識の育成	⑥進路説明会への保護者の出席率を上げるため、早くから広報活動に取り組み、説明会が意義あるものとなるよう工夫する。	⑥進路説明会への保護者の出席率を上げるために、早くから広報活動を行うとともに、進学・就職状況の説明なども取り入れ工夫をこらした。	⑥⑦⑧保護者の進路に対する意識の把握の必要性を感じた。		
	⑦個人の能力や適性の伸長	⑦進路希望者に、校外模試を受験することの意義を根気強く伝えていく。	⑦校外模試の必要性を継続し生徒に働きかけた。			
	⑧きめ細かな進路指導	⑧家庭との協力体制をつくる。	⑧面談などを通じて家庭との協力体制の強化に努めた。			
	⑨キャリア教育の充実	⑨PTA総会や説明会の際などに保護者との就職相談を実施する。進路情報(就職先・求人数等)を充実させる。	⑨PTA総会や説明会の際などに保護者との就職相談を実施することができた。進路情報(就職先・求人数等)を充実させることができた。	⑨保護者相談では卒業生の動向や訪問企業の特徴などの説明をすることができた。	⑨家庭相談が不十分で、就職から進学に急に変更するケースが多かった。2年次までに就職か進学かを決定するよう指導していかなければならない。	⑨生活習慣の改善や礼儀作法、学習態度等、学力と並行して就職に必要な生き方に関する指導を強化していきたい。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
1 学力向上の 推進及び 進路指導の 充実 (4)	⑩進路指導体制の 充実 ⑪各種検定の受検 者数・合格率を上げ る	⑩就職指導について担任との連携を強化する。就職指導室の 情報提供機能を充実させる。就職補習を充実させる。就職 試験対策を強化する。 ⑪能力に応じた各種検定を積極的に受検させ、合格できるよう 支援する。きめ細かな面談指導等を実施する。	⑩就職指導について担任との連携を強化することで、生徒指 導面での協力も密になってきた。また、求人票や過去の受験 報告書をデジタル化することで、生徒自身でプリントアウトでき るようにした。 ⑪能力に応じて、受験する検定を選択させている。また、授業 で学んでいない検定でも自主学習や放課後の指導により、低 学年から上級科目の取得ができた。	⑩進路指導体制の充 実により、少しずつ合 理的になってきてい る。 ⑪ほぼ達成できた。 ⑫1級検定の難易度が高 くなり、対策を練り直す必 要がある。また、1級に関 しては授業だけではなく、 家庭学習力の強化が必要 である。	⑩就職にも学力が必要で あり、補習以外でも自ら学 習するような習慣づくりを 確立させたい。 ⑪授業に関連する検定に 対しては、効果的な指導 方法に改善していくつもり である。また、補習に頼ら ず、家庭での自己学習を させる体制にしていきたい。
2 生徒指導 の徹底及び 保健安全・ 環境教育 の充実 (1)	①基本的な生活習慣 の確立 ②身だしなみ指導の 徹底 ③規範意識の向上 ④安全教育の徹底 ⑤保健安全指導の 充実	評価指標 ①社会人として必要なあいさつの励行を徹底させる。遅刻防 止については、担任による常時指導や保護者と連携し、防止 に努める。食事の重要性についても理解を深める。 ②全体での服装・頭髪検査実施回数→年12回以上 ③規範意識の向上を図るために立哨指導を実施する。 立指導回数→年120日以上 ④自転車車体検査実施→年3回以上、交通安全講話→年1 回、交通安全教室→年4回、携帯電話安全教室→年1回、人 の波運動→年2回 ⑤保健便りの発行→年8回、薬物乱用防止教室、救命講習会 →各年1回	評価指標の達成度 ①自主的にあいさつできる生徒の割合→71%【平成25年度→ 76%】 ②全体での服装・頭髪検査実施回数→12回 ③交通ルール・マナー遵守の年間指導日数→106日 【平成25年度110日】 ④自転車車体検査実施→3回 交通安全講話→1回(牟岐署) 自動車学校入校指導→5回【43名】【平成25年度37名】 携帯電話安全教室→1回 人の波運動→2回 ⑤保健便りの発行→9回、食育だよりの発行→3回 薬物乱用防止教室→1回、救命講習会→2回(8月)	(評定) B (所見) ①～⑤昨年度と比較 すると、より一層の啓 発指導が必要であ る。今後も指導を徹底 し、満足度を向上させ ていかなければなら ない。	①～⑤各HR・各学年間 において、一貫した指導体 制(温度差を生じない)が 築かれていない。 ①服装・頭髪指導は、これ からも粘り強く指導する。 説明を十分にし、保護者 の理解や協力を得る。 ①～⑤生徒指導にあつて は、説明を十分に行うこと で保護者の理解・協力を 得るように努める。 ①～⑤地域の方々の意 見・要望を真摯に受け止 め、その期待に応えられ る学校であり続けるため、 より一層の「生徒指導」の 充実を推進する。

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策	
2 生徒指導の徹底及び保健安全・環境教育の充実（2）		<p>活動計画</p> <p>①生徒会によるあいさつ運動の実施、始業時間の遵守や言葉づかい等、マナーについて指導を徹底させる。</p> <p>②違反者については、担任による常時指導（家庭連絡を含む）、学年や生徒課、保護者とも連携し、身だしなみの改善に努める。全校・学年集会などで服装・頭髪検査を実施し、学校全体として指導を行う。甚だしい場合は、保護者と連携して改善を図る。</p> <p>③交通ルール・マナーの遵守について、生徒会や教員の立哨指導（駅・交差点・校門前）を通じてマナーの大切さを教え、規範意識の向上に努める。</p> <p>④学校安全教育の徹底を図り、交通事故防止や携帯電話でのトラブル防止に努める。</p> <p>⑤疾病予防の大切さを学ばせ、健康教育を推進する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①校訓である「絆」・「学」・「夢」に沿った学校生活の満足度→83%</p> <p>②違反者については、学年や生徒課、保護者とも連携しながら身だしなみの改善に努めた。全校・学年集会などで服装・頭髪検査を実施し、学校全体として指導を行った。甚だしい場合は、保護者と連携して改善させた。 地域保護者からの信頼度→73%</p> <p>③教員の立哨指導（駅・交差点・校門前）を通じて交通ルール・マナーの大切さを教え、規範意識の向上に努めた。</p> <p>④学校安全教育の徹底を図り、交通事故防止に努めた。 牟岐署と連携し、人の波運動を2回実施した。</p> <p>⑤疾病予防の大切さを学ばせ、健康教育や食育を推進した。</p>	<p>②生徒指導件数を減少させ、さらに規範意識を高める指導が必要である。</p> <p>⑤家庭連絡文書（保健便り・食育便りなど）の有効活用に努める。</p>		
	3 特別活動及び海部寮の充実（1）	<p>①ボランティア活動の充実</p> <p>②学校行事の充実</p>	<p>評価指標</p> <p>①小・中・高連携ボランティア→年1回以上 特別支援学校との交流→年2回以上 自主的ボランティア活動（地域のボランティア、収集活動、募金活動など）→1人年1回以上</p> <p>②地域ボランティアの方と生徒会役員の挨拶運動→年10回以上</p> <p>海高祭・球技大会等各学校行事に対する生徒の満足度→80%以上</p> <p>③部活動顧問会議→年3回以上、入部率→95%以上</p> <p>④舎監会議→年2回、寮運営協議会→年1回、寮生会議→年5回 寮生保護者会→年1回</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①小・中・高連携ボランティア→1回 特別支援学校との交流→3回 自主的ボランティア活動（地域のボランティア、収集活動、募金活動など）→1人年1回以上51%</p> <p>②地域ボランティアの方と生徒会役員の挨拶運動→11回</p> <p>海高祭・球技大会などの各学校行事に対する生徒の満足度→81%</p> <p>③部活動顧問会議→3回、入部率→79%</p> <p>④舎監会議→1回、寮運営協議会→1回、寮生会議→5回 寮保護者会→1回</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p>B</p> <p>（所見）</p> <p>①②生徒会役員による校内ゴミ拾い、運動部生徒による清掃活動など継続的自主活動が見られた。</p>	<p>①②③学校行事・部活動すべてに意欲的に取り組むことができた。これまでの活動定着と深化を図りたい。</p> <p>①②③学校行事・部活動すべてに意欲的に取り組むことができた。これまでの活動定着と深化を図りたい。</p>

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善策	
3 特別活動 及び海部寮 の充実 (2)	③部活動の活性化 ④円滑な寮の運営	<p>活動計画</p> <p>①豊かな心を育むとともに、地域社会や海部高校生の絆づくりをすすめ、ボランティア活動を積極的に行うことのできるリーダー性を養う。</p> <p>②「挨拶の励行」を積極的に取り組む。海高祭・球技大会等各学校行事の内容の充実を図る。</p> <p>③魅力ある学校づくりにむけ、技術・技能、仲間意識の向上に取り組み、昨年度以上の成績をあげる。</p> <p>④寮生自身が、自ら寮生活のマナーやルールを守り、自分たちで寮を運営するという自覚を持たせる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①月末大掃除時では、校内外の環境美化に努めた。</p> <p>②「挨拶の励行」を積極的に取り組んだ。海高祭・球技大会といった各学校行事の内容の充実を図った。</p> <p>③魅力ある学校づくりにむけ、技術・技能、仲間意識の向上に取り組んだ。第5回海部高校定期公演を計画し、文化部が協力して実施することができた。(3/21実施)</p> <p>④寮生自身が、自ら寮生活のマナーやルールを守り、自分たちで寮を運営するという自覚を持たせた。</p>	<p>①②③学校行事・部活動すべてに意欲的に取り組むことができた。これまでの活動定着と深化を図りたい。</p> <p>①②③学校行事・部活動すべてに意欲的に取り組むことができた。これまでの活動定着と深化を図りたい。</p>	<p>③顧問会議を定期的開催し、教員間のコミュニケーションを図る。</p> <p>③部活動を通して、豊かな心・規律ある態度等の育成を図る。魅力ある部活動とするため、外部講師を招いたり、講習会を実施し、活性化を図る。</p> <p>④寮生活のルールを守る、整理整頓、またより良い人間関係の指導等さらに充実させる。</p>	
	4 人権教育 の充実 (1)	①人権教育の推進 ②人権教育啓発行事の充実	<p>評価指標</p> <p>①人権学習HR活動→年5回</p> <p>②-1人権教育啓発行事に対する生徒の満足度→75%以上 各人権教育啓発行事→保護者参加10名以上</p> <p>②-2人権教育教職員研修→年4回</p> <p>活動計画</p> <p>①HR活動に人権学習を位置付け、生徒の人権意識(『安心・自信・自由』)の高揚を図り、人権問題解決の実践力を育成する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①同和問題を中心に、学年統一のテーマを5回設定し、生徒人権意識調査より生徒の関心のある個人権課題の学習を取り入れた。 人権学習HR活動→5回</p> <p>②-1人権・道徳教育映画「おにいちゃんのハナビ」生徒満足度94%</p> <p>人権・道徳教育講演会「生徒の周辺で起きる人権問題と対応」講師 鳴門教育大学大学院 阪根健二氏 生徒満足度→93%</p> <p>②-2 人権教育教職員研修→4回</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①文部科学省から出されている「人権教育の指導方法等の在り方について(第3次とりまとめ)実践編」をもとに、体験的参加型授業を展開し、一人ひとりの生徒が人権共存の考え方を理解できるように工夫した。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①②人権啓発を日々の日常で確立させるためには、推進に関する工夫が必要である。今年度は、鳴門教育大学などの関係機関と連携した人権教育研修会を行い、社会の現状から深く学び、教育方法のあり方を探求した。</p>	<p>①生徒主体の人権学習HR活動を進めるために、体験的参加型学習を取り入れている。生徒人権推進員を中心とした活動が進んでいる。</p> <p>②-1生徒人権教育推進委員会で作品を決め、生徒の興味関心に応じた映画会となるよう計画している。</p> <p>②-2外部講師を招き、差別の実態から深く学び、課題を明らかにする研修内容を重ねている。また、時代の変化や指導要領改訂に対応できるよう研修を重ねている。</p> <p>①各HRで生徒の状況に応じた、学習を展開するため、資料やワークシートを各HR担当が工夫している。</p>

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策																			
4 人権教育の充実 (2)		<p>②-1人権・道徳教育映画会や人権・道徳教育講演会等各人権教育啓発行事の内容を充実させ、人権教育啓発行事を保護者に案内し、参加を求める。</p> <p>②-2徳島県人権教育基本方針の精神をふまえ、各種研究会の研修成果等の共有を図る。</p>	<p>②-1人権・道徳教育映画「おにいちゃんのハナビ」保護者参加申し込み5名(参加5名)。人権・道徳教育講演会「生徒の周辺で起きる人権問題と対応」保護者参加申し込み7名(参加7名)</p> <p>②-2徳島県高等学校人権教育研究大会3名参加、四国地区人権教育研究大会2名参加、全国人権・同和教育研究大会1名、海陽町分館巡回人権学習会14名参加、海陽町人権学習会16名参加</p>	<p>②-1保護者や地域の方々の参加は少ない。地域との連携を深めるためにも校内人権行事の参加を求めるとともに、教職員が地域の人権学習会に参加するなど、よりよい教育環境づくりをすすめている。</p> <p>②-2教職員研修の充実のため、各種研究会に参加し、実践等を学んでいる。大会での学びは、校内研修で報告し、周知している。</p>	<p>②-1人権教育啓発行事の保護者・地域の方への案内方法を工夫する必要がある。(海陽町教育委員会や分館・公民館との連携を深める。)</p>																			
5 特別支援教育・教育相談の充実	<p>①特別支援教育の充実</p> <p>②教育相談の充実</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">評価指標</td> </tr> <tr> <td>①校内研修会→年1回 特別支援・不登校対策委員会実施→年5回</td> </tr> <tr> <td>②教育相談週間→年3回、悩みアンケート→年3回 教育相談学年部会→年5回</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">活動計画</td> </tr> <tr> <td>①特別支援教育についての理解を深めるため、習熟度別授業の展開やチームティーチングを行い、特別支援を要する生徒の支援体制をつくる。</td> </tr> <tr> <td>②「悩みアンケート」の実施や、相談週間を設けることにより、教育相談活動を充実させる。</td> </tr> </table>	評価指標	①校内研修会→年1回 特別支援・不登校対策委員会実施→年5回	②教育相談週間→年3回、悩みアンケート→年3回 教育相談学年部会→年5回	活動計画	①特別支援教育についての理解を深めるため、習熟度別授業の展開やチームティーチングを行い、特別支援を要する生徒の支援体制をつくる。	②「悩みアンケート」の実施や、相談週間を設けることにより、教育相談活動を充実させる。	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">評価指標の達成度</td> </tr> <tr> <td>①校内研修会→2回 特別支援・不登校対策委員会実施→5回</td> </tr> <tr> <td>②教育相談週間→3回、悩みアンケート→3回 教育相談学年部会→5回</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">活動計画の実施状況</td> </tr> <tr> <td>①特別支援・不登校対策委員会にかかる生徒については、概ね職員全員の共通理解を図ることができた。</td> </tr> <tr> <td>②悩みアンケートや相談週間で生徒の実態把握に努めた。</td> </tr> </table>	評価指標の達成度	①校内研修会→2回 特別支援・不登校対策委員会実施→5回	②教育相談週間→3回、悩みアンケート→3回 教育相談学年部会→5回	活動計画の実施状況	①特別支援・不登校対策委員会にかかる生徒については、概ね職員全員の共通理解を図ることができた。	②悩みアンケートや相談週間で生徒の実態把握に努めた。	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">総合評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(評定)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">B</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(所見)</td> </tr> <tr> <td>①②校内研修会を通して、「気になる生徒」についての教職員で共通理解し、対応を考えることができた。</td> </tr> <tr> <td>①-1非常勤講師や特別支援教育指導補助員を置き、習熟度別授業やチームティーチングを展開した。</td> </tr> <tr> <td>①-2校内研修「気になる生徒と具体的な対応策について」「高等学校における特別支援教育」を実施。 ②教育相談週間では、気になる生徒や相談希望のあった生徒に教育相談課員が話を聞く機会を設けている。</td> </tr> </table>	総合評価	(評定)	B	(所見)	①②校内研修会を通して、「気になる生徒」についての教職員で共通理解し、対応を考えることができた。	①-1非常勤講師や特別支援教育指導補助員を置き、習熟度別授業やチームティーチングを展開した。	①-2校内研修「気になる生徒と具体的な対応策について」「高等学校における特別支援教育」を実施。 ②教育相談週間では、気になる生徒や相談希望のあった生徒に教育相談課員が話を聞く機会を設けている。	<p>①②外部機関との連携を図りながら、更に支援体制を整える。</p> <p>①-1チームティーチングがよりいっそう効果的なものになるように工夫を行う。</p> <p>①-2授業のユニバーサル化を目指し、学習教材の工夫を行う。また、本校の実態に応じた研修を計画する。 ②生徒が気軽に相談に来られるような工夫をする必要がある。</p>
評価指標																								
①校内研修会→年1回 特別支援・不登校対策委員会実施→年5回																								
②教育相談週間→年3回、悩みアンケート→年3回 教育相談学年部会→年5回																								
活動計画																								
①特別支援教育についての理解を深めるため、習熟度別授業の展開やチームティーチングを行い、特別支援を要する生徒の支援体制をつくる。																								
②「悩みアンケート」の実施や、相談週間を設けることにより、教育相談活動を充実させる。																								
評価指標の達成度																								
①校内研修会→2回 特別支援・不登校対策委員会実施→5回																								
②教育相談週間→3回、悩みアンケート→3回 教育相談学年部会→5回																								
活動計画の実施状況																								
①特別支援・不登校対策委員会にかかる生徒については、概ね職員全員の共通理解を図ることができた。																								
②悩みアンケートや相談週間で生徒の実態把握に努めた。																								
総合評価																								
(評定)																								
B																								
(所見)																								
①②校内研修会を通して、「気になる生徒」についての教職員で共通理解し、対応を考えることができた。																								
①-1非常勤講師や特別支援教育指導補助員を置き、習熟度別授業やチームティーチングを展開した。																								
①-2校内研修「気になる生徒と具体的な対応策について」「高等学校における特別支援教育」を実施。 ②教育相談週間では、気になる生徒や相談希望のあった生徒に教育相談課員が話を聞く機会を設けている。																								

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
6 開かれた学校づくり	①地域に根ざした運営	評価指標 ①PTA総会の出席率→30%以上 学校祭への参加→500人以上 ホームページアクセス→年30,000回以上 保護者等による学校評価アンケートの実施→年1回 海高だよりの発行→年3回	評価指標の達成度 ①PTA総会の出席率→24% 海高祭への参加→約500名 ホームページアクセス→年40,000回(4月1日～3月1日) ホームページのメニューを二つ(「NIPPON探究」「海部支援プロジェクト」)増やした。部活動の活動内容をアップする回数が増えた。 保護者等による学校評価アンケートの実施→1回 海高だよりを3回発行した。	総合評価 (評定) B (所見) ①PTA総会の出席率は、24%で目標数値には届かなかった。	①PTA総会の内容や案内方法について見直すことも必要である。ホームページアクセス数は昨年より増えた。	①保護者への情報公開の充実を図る。 ①今年度に引き続き、各種学校行事の案内や配布物等をホームページに掲載する。
		活動計画 ①保護者・地域との連携協力、情報公開を充実させる。	活動計画の実施状況 ①情報公開については昨年以上に充実させることができた。PTA研修旅行の参加者は微増、PTAバザーの収益金は、提供品が激減したにもかかわらず昨年並みであった。	総合評価 (評定) A (所見) ①様々な防災訓練や講演会などを通じて、防災意識の持続と高揚を図り、防災リーダーとしての自覚を育てるとともに、地域や関係諸機関と連携することで、互いに助け合える「顔と顔が見える関係」を築くことができた。	①現在の取組を継続し、一人一人がさらに高い防災意識を持つよう深化させたい。	①訓練内容や参加する訓練・研修会などを精選し、より高い防災意識を養い、持続させる。
7 危機管理体制の充実	①危機管理意識の育成	評価指標 ①-1防災避難訓練→年5回 小・中・高・地域合同避難訓練→年1回 ①-2防災講演会の実施→年1回 各種防災フォーラム・研修会などに参加	評価指標の達成度 ①-1防災津波避難訓練→5回 小・中・高・地域合同避難訓練→1回 ①-2防災講演会→2回 中・高校生を対象とした防災研修会に参加 防災教育の満足度→91%【平成25年度91%】	総合評価 (評定) A (所見) ①様々な防災訓練や講演会などを通じて、防災意識の持続と高揚を図り、防災リーダーとしての自覚を育てるとともに、地域や関係諸機関と連携することで、互いに助け合える「顔と顔が見える関係」を築くことができた。	①現在の取組を継続し、一人一人がさらに高い防災意識を持つよう深化させたい。	①訓練内容や参加する訓練・研修会などを精選し、より高い防災意識を養い、持続させる。
		活動計画 ①防災・減災教育啓発に力を注ぎ、防災意識の持続と高揚を図るとともに、危機管理意識や将来における各地域の防災リーダーとしての自覚を促す。	活動計画の実施状況 ①南部県民局・海陽町役場やその他関係諸機関と連携して防災教育を推進し、実践力を身に付け、将来の防災リーダーとしての自覚を促すため校内では年5回、小・中・高・地域合同の避難訓練は年1回、さらに今年度はJR四国との合同避難訓練、南部圏域防災訓練に参加するとともに、防災講演会は年2回実施した。	総合評価 (評定) A (所見) ①様々な防災訓練や講演会などを通じて、防災意識の持続と高揚を図り、防災リーダーとしての自覚を育てるとともに、地域や関係諸機関と連携することで、互いに助け合える「顔と顔が見える関係」を築くことができた。	①現在の取組を継続し、一人一人がさらに高い防災意識を持つよう深化させたい。	①訓練内容や参加する訓練・研修会などを精選し、より高い防災意識を養い、持続させる。